

## 宮古における野生クジャクの分布状況

—平良市大野山林の野生クジャクを捕獲しなくてもいいのか?—

岡 徹 (沖縄県立宮古少年自然の家 主任専門職員)

はじめに

各地で外来生物による在来生物への影響が懸念されている。沖縄本島北部のヤンバルクイナの減少がマングースの北上による分布域と重なり、減少は捕食によるものだろうと考えられ、また野生化したイヌやネコによる捕食や人畜共通の病気媒介など、人間への影響も心配されている(川道・岩槻・堂本, 2002・岡, 2004)。

本報告では宮古におけるクジャクの生息分布と、大野山林の自然生態系へクジャクが与えている影響について述べる。また2005年3月に八重山の小浜島に行き、被害状況や捕獲装置を見てきたのであわせて紹介する。小浜島では1980年代にはいって、リゾートホテルの飼育クジャクが敷地から飛び出し野生化しており、自然生態系の変化や農業・畜産に被害が出ている。

方法

聞き取り調査は2003年4月から2005年3月まで行った。現地調査は2003年12月から2004年1月にかけて行ったが、この時期はクジャクがあまり鳴き声を発せず条件としてはよくなかった。大野山林(平良市)・いこいの森(城辺町)・牧山公園(伊良部町)では、全域をカバーできるような既設の遊歩道にコースを設定した。他に野田山林(平良市)下地島、来間島、池間島、大神島でも調査を行った。多良間島・水納島は調査してない。大野山林は筆者の職場所在地で、年間を通してクジャク調査ができる状況にある。聞き取りは不特定多数から行い、環境庁自然環境保全基礎調査用メッシュ図に●印を記入、現地調査で筆者が目撃した地点は、メッシュ枠を囲んで□印にした。食性については野外個体では確認できなかったため、飼育している方から聞いた。

結果

現地調査では2003年9月に襲来した台風14号の痕跡が残っていて、倒木や枝が遊歩道を被っていた。地表部は洗い流され、陽光が差し込み林内とは思えない明るさだった。

2004年1月時点でクジャクを現地で確認できたのは大野山林(平良市)、いこいの森(城辺町)、牧山公園(伊良部町)の3カ所である。野田山林(平良市)、池間島(平良市)、来間島(下地町)、大神島(平良市)では確認できず、下地島(伊良部町)では2001-02年頃に目撃したという情報があった。

聞き取りと現地調査で得られたクジャクの分布を図1~4に示した。

図1; □で囲んだ●印7個が集中している場所は大野山林(平良市)、その左●印2個は左側から平良第一小学校周辺と宮古工業高校付近である。下側にある●印3個は左が下地町来間大橋へ向かう途中の道路、中が介護老人保健施設悠々隣の林、右が上野村農村改善センター付近である。

図2；左側縦に並ぶ●印4個のうち上3個は北海岸一週道路添いで、下の口で囲んだ●印は、いこいの森（城辺町）である。そこは高台になっており大野山林（平良市）と同じく植林等整備事業が行われた所で、遊歩道や人工池、展望台などの構築物がある。右端は、ゴルフ場のオーシャンリンクス宮古島付近（城辺町）である。

図3；●印3個のうち、上は狩俣小学校西側のサトウキビ畑、中は宮島小学校付近、下は宮古養護学校向かいの施設である。

図4；右側の口で囲んだ●印2個は牧山公園（伊良部町）、左の●印は下地島空港のフェンス沿いである。

表1 現地調査日とクジャク目撃数

大野山林 （平良市）	目撃数	いこいの森 （城辺町）	目撃数	牧山公園 （伊良部町）	目撃数
2003. 12. 02	0	2003. 12. 09	5	2003. 12. 05	0
2003. 12. 03	3	2004. 01. 15	3	2003. 12. 10	1
2003. 12. 04	0				
下地島 （伊良部町）		野田山林 （平良市）		池間島 （平良市）	
2003. 12. 05	0	2003. 12. 14	0	2003. 12. 14	0
2003. 12. 10	0	2004. 1. 15	0	2004. 1. 15	0
来間島 （下地町）		オーシャンリンクス宮古島周 辺（城辺町）			
2003. 12. 09	0	2003. 12. 02	0		
2004. 1. 15	0	2003. 12. 03	0		

クジャクを見かけることが多いのは早朝や夕方、6-7羽の群れで遊歩道や林縁周辺、サトウキビや野菜畑にいる。何度か追跡を試みたがすぐ見失った。遊歩道で出会うとブッシュに逃げ込んだり、急勾配の崖を駆け上がって逃げたり、時には近くの高枝に飛び移る。ミャオーというネコのような鳴き声で存在を確認でき、鳴き合いをする事もある。林床の枯れ葉や枝を踏みつぶして歩いている時は、その音でも存在を知ることもある。枯れ葉や腐葉土をほじくり返しているのを見ることがあるが、エサを特定するのは困難である。

飼育下でのえさは、イネ科植物のネピアグラスを機械で細かくし、ニワトリの飼料と混ぜたもの、乾燥トウモロコシ、大根、オクラ、キャベツ、サツマイモの葉、葉野菜、トウガ、残飯（ご飯、えびせん、バナナ、グワバ、もやし、豚肉、さしみ）等だった。とにかく何でも食べるという。

大野山林やいこいの森では、周辺の畑でクジャクの姿を目撃することはあるが被害はまだ少なく、野菜を植えている畑では大根やニンジンの新芽が食べられるという。

小浜島では収穫前の米、牧場の牛飼料、葉野菜、キャベツ、トマト、サツマイモ、サトウキビ

植え付け後の新芽やサトウキビが掘り返されるなどの被害がある。クジャク対策の為畑の周囲・その内側に植えてあるトマト、キャベツなどをさらにアミで覆っていて労力やコストがかかっていた。

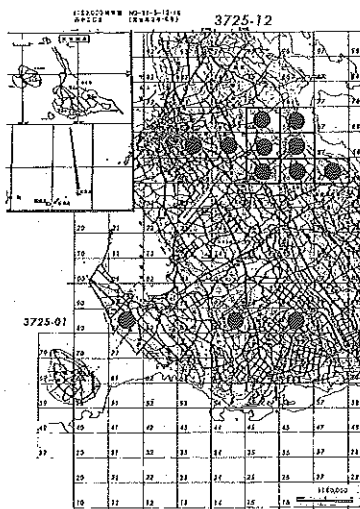


図 1

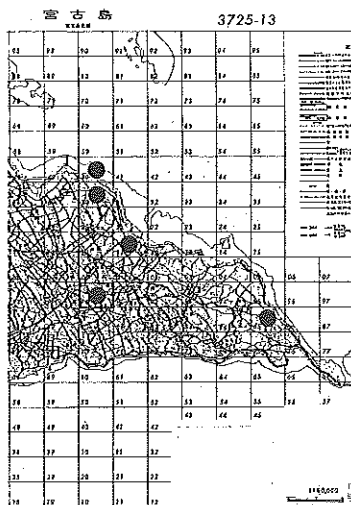


図 2

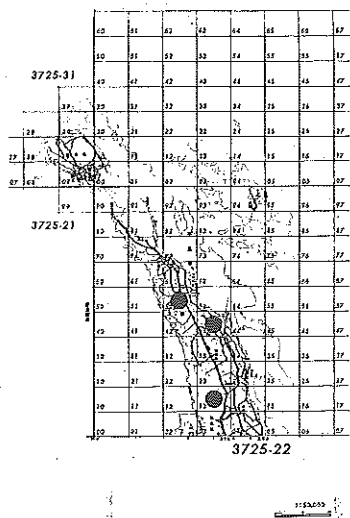


図 3

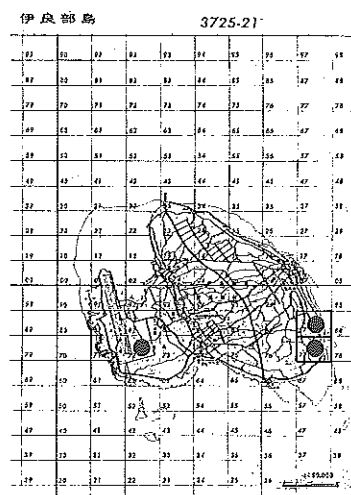


図 4

図1-4 クジャクの分布図 聞き取り調査情報—●印、現地調査目撃—枠を囲んだ●印

## 考察

2004年1月時点の野生化クジャク生息場所は、大野山林（平良市）、いこいの森（城辺町）、牧山公園（伊良部町）で、他の情報は移動途中の個体が目撃された場所であると思われる。

宮古で最初にクジャクが見られたのは大野山林（平良市）で、1997年頃のことである。大野山林へ入りこんだ道筋を情報から推定すると、まず平良市内平良第一小学校の飼育小屋から逃げ出し、しばらく校舎間を飛びまわっていた。その後近くの住宅街にあるアツママ御嶽周辺でみられ、東に移動、市街地を離れ宮古工業高校付近でも目撃されている（図1）。さらに東へ向かい大野山林に入り住みついたと考えている。

牧山公園（伊良部町）、いこいの森（城辺町）、オーシャンリンクス宮古島付近（城辺町）、狩俣や島尻周辺で目撃されたのは、いずれも近くの小学校で飼育していたのが逃げたという情報あった。佐良浜小学校、西城小学校、福嶺小学校、狩俣小学校では飼育していたという。他に果樹園経営者が飼育していたのが逃げ出した例、個人で飼育していたが手に負えなくなり大野山林に持ってきて放した例もあった。宮古島、伊良部島へのクジャク移入は漁業に従事する者が、小浜島からもらってきて学校等へ贈呈したという（田中・嵩原，2003）。宮古においてクジャクが野生化した原因の一つとして、安易に譲り受けその管理が不十分だったことにある。

クジャクの食性については（田中・嵩原，2003）にあるように両生・ハ虫類の幼体や昆虫、ミミズ等地表付近に生息する小動物や落下した植物の種子等を食べていると思われる。

大野山林には国指定天然記念物かつ環境省レッドデータブック絶滅危惧指定種でもあるカラスバト、キンバト、キシノウエトカゲが生息する。近年の林内植林事業や過剰な遊歩道整備は在来生物の生息環境を破壊している（岡，2004）。加えて外来生物—クジャクの侵入。彼らは下草を刈られた明るい単純な植林地や遊歩道を好むので都合がよい。地表近くで生活するヒメアマガエル、ヌマガエル、サキシマスベトカゲ、サキシマキノボリトカゲ、ミヤコカナヘビ、サキシマスジオ、サキシママダラ、ミヤコヒバア、ミヤコマドボタル、キイロスジボタル等が激減している。大野山林の代わりに自然学習ができる場所は他になく、本来の生態系再生を早急に考える必要がある。

2003年1月時点の個体数推定を試みた。聞き取り調査と現地調査から各クジャクの群れを6～7羽とし、大野山林（平良市）ではよく目撃されている4地点周辺にいと仮定した。

大野山林全域をくまなく調査した結果、4地点で群れを確認できたので24羽～28羽程度が生息していると考えた。同様に、いこいの森（城辺町）では2地点で12羽から14羽。牧山公園（伊良部町）とオーシャンリンクス宮古島付近（城辺町）は1～3羽程度だと推定した。宮古全体では38～48羽の野生化クジャクが生息、大野山林といこいの森では繁殖している。

年間を通してみると、大野山林においてクジャクとの出会い回数は変化する。罾を仕掛け捕獲する者や実際に捕まえ食べた人もいるので、その影響もあると思われる。幼鳥連れの時期は目撃が多くなり繁殖期前は鳴き声が多くなる。

## 提言

小浜島では地上を徘徊する在来の爬虫類や両生類が、種類数や個体数を減らし（田中・高原、2003）、農業、畜産への被害も問題になっている。

宮古ではまだ一部の野菜農家に限られているが、対策をしないままクジャクを放置し個体数が増加すれば、被害が出てくる可能性がある。教育の面からは、総合的な学習の時間での利用や生活・理科等、大野山林での野外学習が増えてきている。しかし生息環境の悪化で、宮古在来の動物や植物を子どもたちに見せることができなくなってきている。

教育委員会の天然記念物や学校指導の担当部署、農林関係等の行政指導機関は、啓蒙や捕獲を行うなど対策を講じた方がよい。飼育している学校や個人は、管理徹底と生態系等に与える影響を知る必要がある。

## 謝辞

県立宮古少年自然の家職員、自然クラブの生徒、宮古野鳥の会会員、大野山林を利用する多くの方々は情報提供や調査に協力してくれた。平良良吉嗣（池間小学校）、仲間勝行（伊良部町教育委員会）、具志堅実（来間島在、元県鳥獣保護員）の各氏は当地の情報を、上地秀雄氏（平良市、飼育家）はエサについて、小浜公民館副館長の大盛肇氏には説明と案内をしてもらった。それぞれにお礼申し上げる。

## 参考文献

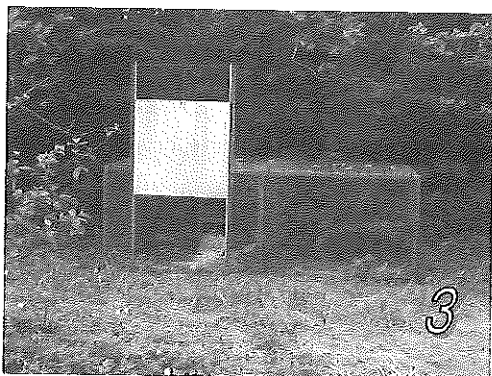
- 川道美枝子・岩槻邦男・堂本暁子(2002)移入・外来・侵入種—生物多様性を脅かすもの、築地書館
- 田中聡・高原健二(2003)先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について、沖縄県立博物館紀要(29):19-24
- 岡徹(2004)平良市大野山林の動植物に影響を与えている要因、平良市総合博物館紀要(9):67-72



①野生化クジャク 大野山林で繁殖している。警戒心が強く出会うとすばやく逃げる。ネコのような鳴き声をだす。



②クジャク群れ 7-8羽でいることが多い。遊歩道が巡回コースになっていてファンもみられる。



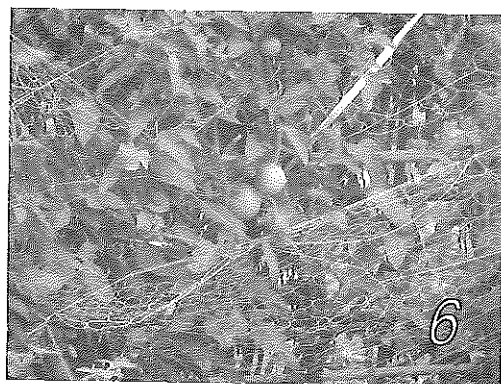
③クジャク捕獲装置(小浜島) 左側の白板が奥のエサと運動して落下する。中央に仕切りがあり右側に移せるようになっている。



④捕獲されたクジャク(小浜島) 左捕獲装置の右側内部。野外個体と鳴き合いさせおびきだす。



⑤野菜畑(小浜島) 畑周囲も中にも網がある。野菜、トマト、キャベツなど個別に網が張られ人手が多くかかりコスト高になる。



⑥左畑の内側(小浜島) トマトにも網がかけられている。